



## 「わからない」を「わかる」に変える学び — WBGT を手がかりとして —

校長 伊藤 栄司

新学年が始まって1か月が過ぎようとしています。錦華公園の木々も見事な葉を繁らせ、日差しを遮って心地よい木陰を作り出しています。風薫る5月。子どもたちは元気いっぱい登校しています。

### 疑問をもつことから始まる学び

数年前から、天気予報やお便り等で「WBGT（暑さ指数）」を目にする機会が増えました。気候変動の影響で4月中から25度を超える夏日が観測されるなど、熱中症に対する危機感から一つの指標として学校でも活用しています。「気温とは何が違うのか」「数字が示す意味は？」といった疑問を感じたことのある方も多いのではないのでしょうか。

実は、こうした疑問こそが、子どもたちの学びにもつながる大切な出発点です。本校でも、子どもたちが「わからない」と思ったとき、そのままにせず、「なぜだろう？」と問い直してあげることで、より深い理解へつなげることを重視しています。

### WBGT（暑さ指数）

WBGT を例に、「わからない」が「わかる」に変わる過程を少しご紹介します。

WBGT は気温だけではなく、湿度や日射（輻射熱）、風の影響などを総合して「人がどれだけ暑さを感じるか」を示す指数です。単なる温度ではなく「体が受ける熱の負担」を数値化している点に特徴があります。この指数が生まれた背景には、アメリカ軍のある出来事にあります。

1950年代、南部サウスカロライナ州の海兵隊新兵訓練基地で、暑さによる体調不良が多発しました。気温はそれほど高くない日でも、湿度が高いと次々に倒れてしまう。そこで「気温以外に何が暑さを左右しているのか」を科学的に検討し始めました。

### 調査の結果、

- 湿度が高いと汗が蒸発せず、体の熱が逃げにくい
- 直射日光が強い場所では体が受ける熱が急激に増える

と事実が明らかになりました。これらを総合的に評価できる指標として開発されたのが WBGT です。

### 数値をもとに判断

アメリカでは、この指数を用いて訓練の中止基準を明確にし、「数字で判断する」体制を整えました。後にスポーツ医学の分野にも広がり、現在では世界的に標準化された指標として使われています。導入された経緯がわかると、「暑さ指数ってそういう意味だったのか」と自然に理解が深まります。

また、最初はただの記号のように見えていたものが、背景や数字が示す意味を理解することで一つの“物語”として心に落ちてきます。こうした経験こそが、「わからない」が「わかる」・「理解する」に変わる瞬間です。

### 日々の学習の中で

子どもたちの学習も、まさに同じプロセスをたどります。「どうして?」「なぜ?」と問いを立て、少しずつ手がかりを集めていきます。書籍で調べる、ICT を活用する、詳しくそうな人に聞くなどもややした疑問を解決するための手段を選び解決します。この時、解決に必要な知識や技能も並行して身に付けることでより正確に答えにたどり着けるようにしています。

ちなみに本校では、4月の下旬から WBGT の計測機器を校庭に設置し、暑さ指数が31度を超えるときには、外での遊び、体育等を中止にしています。数値によって正しい判断ができる好例と言えます。

※WBGT（暑さ指数：Wet Bulb Globe Temperature）※「考える力」池上彰著 PHP ビジネス新書より